

民主青年新聞

●ホームページ www.dylj.or.jp ●Eメール minsin@dylj.or.jp

見どころ

- 第2回中央委員会決議 (4、5面)
- カジノ実施法案 (3面)
- 勉強は何のためにするの? (6、7面)

対立から対話へ



▶米朝首脳会談で握手をするトランプ大統領と金正恩委員長(6月12日、NHKニュース7より)

6月12日、北朝鮮と米国による歴史上初めての首脳会談が行われ、朝鮮半島の非核化や平和体制の構築に向けて合意が交わされました。平和的解決を求める国際世論の広がり、関係国の粘り強い外交交渉の努力の成果です。新たに始まった平和へのプロセスを促進し、実らせるために何が必要か青年と考えました。(文中は一部仮名、渡辺わか記者)

米朝首脳会談を平和の転換点に

歴史的な一歩

「朝鮮半島の非核化」や「明者の遺骨返還約束」の4項目について合意し、功を収めた南北首脳会談(4月27日)から1カ月半。米国のトランプ大統領と北朝鮮の金正恩委員長による歴史上初となる首脳会談が6月12日、シンガポールで開催されました。国際機関や関係各国政府などは同日、「重要な節目」などとする歓迎や支持を表明しました。

西氏は共同声明で、「新たな米朝関係の確立▽朝鮮半島における永続的で安定した平和体制構築への努力▽4月の南北首脳会談で合意した『板門店宣言』の再確認による完全な非核化へ」

「朝鮮半島の非核化」や「明者の遺骨返還約束」の4項目について合意し、功を収めた南北首脳会談(4月27日)から1カ月半。米国のトランプ大統領と北朝鮮の金正恩委員長による歴史上初となる首脳会談が6月12日、シンガポールで開催されました。国際機関や関係各国政府などは同日、「重要な節目」などとする歓迎や支持を表明しました。

西氏は共同声明で、「新たな米朝関係の確立▽朝鮮半島における永続的で安定した平和体制構築への努力▽4月の南北首脳会談で合意した『板門店宣言』の再確認による完全な非核化へ」

粘り強い努力と平和を 求める市民の声が力に

北朝鮮の核・ミサイル開発をめぐり、昨年は偶発的な戦争の危険まで懸念されるほど緊張状態が高まり、双方共に挑発合戦をくり返してしまいました。しかし、国際社会は対話による解決を求め、トランプ大統領も北朝鮮が挑発行為を停止すれば「米国は北朝鮮と交渉する意思がある」と表明し、対話による解決への道が開かれました(上図)。

対話による解決に向けて重要なイニシアチブを発揮したのは、韓国の文在寅大統領でした。文大統領は昨年5月の大統領就任時から「朝鮮半島に平和を築くためなら、どんなことでもする」と宣言し、対話による平和的解決を求め続けてきました。

軍事緊張が高まった昨年7月、ドイツで開かれた会合で文大統領は「対話の

米朝関係をめぐる最近の動き

2017年 1月	トランプ米大統領が就任。オバマ前政権の対北朝鮮政策(戦略的忍耐政策)見直しに着手
7~8月	北朝鮮がICBM(大陸間弾道ミサイル)の発射実験をくり返す
8月	トランプ大統領がこれ以上、米国を威嚇すれば「炎と怒り」に直面することになると発言
9月	北朝鮮が6回目の核実験を実施。国連安保理で対北朝鮮追加制裁を決議
11月	北朝鮮がICBMを発射
〃	米国が北朝鮮をテロ支援国家に再指定
2018年 1月	金正恩國務委員長が新年の辞で、ICBMの配備を宣言する一方、対話の意思を表明
2月	韓国平昌で開かれた冬季五輪に北朝鮮が参加
3月	韓国大統領特使が北朝鮮と会談。特使が訪米し、トランプ大統領が米朝首脳会談を了承
4月27日	3回目の南北首脳会談
6月12日	史上初の米朝首脳会談

「しんぶん赤旗」(6月13日付)を基に作成

「しんぶん赤旗」(6月13日付)を基に作成

対話による解決に向けて重要なイニシアチブを発揮したのは、韓国の文在寅大統領でした。文大統領は昨年5月の大統領就任時から「朝鮮半島に平和を築くためなら、どんなことでもする」と宣言し、対話による平和的解決を求め続けてきました。

軍事緊張が高まった昨年7月、ドイツで開かれた会合で文大統領は「対話の

(6面につづく)